みんなで護ろう文化財 VOL.19

文化財保護委員

国造神社と文化財

委員　嘉悦　渉

国造神社

阿蘇北外輪の山懐深く、木々の緑に包まれて連なる集落が手野地区です。国造神社は、手野の中央に位置し、渓谷の清冽な流れに添うように、欅の白木造りの美しい姿で鎮座しています。境内に隣接したところには、上・下御倉古墳などがあり、自然と歴史に満ち溢れています。

国造神社（市指定有形文化財）
ホオの木（市指定記念物）

国造神社の創建は、崇神天皇18年（紀元前80年）と伝えられ、祭神は健磐龍命の第1子の国造速瓶玉命・雨宮媛命・高橋神・火宮神の4神がまつられています。速瓶玉命は、阿蘇を開拓した健磐龍命の意志を継いで農耕を広め、畜産・植林などにも力を尽くし、阿蘇初代国造とされています。阿蘇神社の北側に位置するので北宮とも呼ばれ、古くから朝廷の尊崇はもとより、民衆の信仰も厚い神社です。

社殿は、本殿が正面4間の側面2間で、拝殿は正面3間の側面3間あり、いずれも入母屋造の銅板葺です。肥後藩主の細川綱利の命により寛文13年（1673）に造営され、それを裏付けるように本殿の棟札が発見されています。社殿の彫刻などの意匠は、当時の神社建築により造られており、その後に何回かの改修が行われているようです。

また、境内末社として、神話にゆかりのある大鯰の霊をまつる鯰宮があります。鯰の研究で知られる秋篠宮殿下が参詣されたこともあります。

手野の大杉

境内には、樹齢2,000年を超え、速瓶玉命のお手植えと伝わる元国指定天然記念物「手野の大杉」があり、傍らには後継樹も植えられています。平成3年の台風により折損し、国指定は解除されましたが、幹と根にそれぞれ上屋を建てて保存されており、現在でも国指定にふさわしい堂々とした姿が見られます。

そして、手野の大杉の隣には、ホオの木（朴の木）があります。樹高約34m、幹回り約4.7mで、5月頃に黄白色の直径15cmほどの花が咲き、その姿はいかにも神秘的です。九州では珍しい大木とされています。

そのほか、平成2年の台風で折木した桧は、拝殿の前で美しい姿を見せていました。それに見入った女流俳人の黒田杏子は、文芸春秋にエッセイとして目の前で神社にすむ白蛇を見たことを発表し、「蛇穴を　出て神木の　枝の先」という俳句を詠んでいます。

境内の高台からは、田園の彼方に阿蘇五岳が連なり、周辺には数多くの古墳がロマンを秘めるかのように点在しています。キラキラと光り溢れる宮川等の自然の静かなたたずまいを見せるこの地は、正に阿蘇文化のあけぼのそのものです。

ホオの木